

後援会だより

親子で綴る法政の4年間

感謝の心を持って...



法学部
わたなべ かつや
渡邊 知哉

大学生活を振り返って、たくさんの人に感謝しなければならぬと感じています。まず両親に対してです。大学生になるまでは、料理や洗濯などは全て母親に任せていました。しかし、大分から上京し初めて一人暮らしをしてみると、家事をするのはとても大変でした。特に掃除は、一つこの間キレイにしたのにこんなに

も早く部屋は汚れるのか」と驚くほど、頻りにしなければなりません。母と祖母が東京に旅行に来た際に自宅を掃除してくれましたが、水回りなど普段は目が行き届かない部分まできれいになっていくのを見て、自分が未熟であるのと同時に、長年家事をしている母の凄さがわかりました。大学生になってからの4年間は、今まで両親が自分にしてきてくれたことのありがたみを感じながら生活していました。

そして、私はサークルのメンバーにも感謝しています。周りに知人がいない中で、サークルのメンバーとの

共に活動することが何より楽しみでした。数あるサークルの中からなんとなしに入部を決めたフットサルサークルでしたが、先輩や同期の仲間のは内気で人と話すのが苦手な私のありのままを受け入れ、いつも優しく接してくれました。

これからは今まで私を支えてきてくれた人たち、そして今後出会う全てのの人に対して、感謝の心を持って生活していきたいと考えています。

感謝の気持ちを忘れずに



わたなべ けんじ
渡邊 研治

卒業おめでとう。大学での講義はもとより、サークル活動・短期留学・趣味のスポーツ観戦など、「人生の宝物」と呼べるような、充実した4年間だったと思う。私も後援会の一員として多くの人と出会い、強い絆を繋げることができた。これも君が法政大学に入学したおかげだと感謝している。これからも自分を支えてくれた多くの人への感謝の気持ちを忘れて着実に歩みを続けてほしい。心から応援している。

支えられた4年間



生命科学部
まつはし えり
松橋 絵理

私にとって大学生活の4年間は、とても充実した日々で、あつという間違ったように感じます。大学では、環境応用化学科に進み、実験や授業の課題を毎日のようにこなしてきたことがとても印象に残っています。4年生からは研究が始まり、新しいものを作り出ししていく、ということの難しさを痛感しました。失敗して、考えること

の繰り返しでなかなか上手くいかないことが多かったのですが、現在の研究室に所属し、研究することが出来て良かったと思っていますし、いつも支えてくれたいた研究室の皆さんにはとても感謝しています。

また、自由に使える時間をアルバイトや旅行などに費やすことができた。アルバイトは塾の講師を4年間続けました。わからないことを教える、というのはとても難しいことでしたが、続けることで成長することができたと思います。旅行の計画をたて、さまざまなところへ行き、その土地の物を食べたり、名所を見

ることは、とても楽しく、良い思い出となりました。

この4年間、周りの人に恵まれて支えられながら過ごした毎日でした。大学生活、アルバイト、研究室など、多くの人にいつも支えられてきました。4月から社会人になりましたが、大学4年間で学んだこと、成り上がったこと、失敗してしまっただけでも生かして、周りの人に感謝しながら、これからは人を支える側になれるよう、日々精進していきます。

感謝の気持ちを忘れずに



まつはし けんじ
松橋 敦子

法政大学に入学して4年、時の経つのは早いものです。「環境応用化学」で学んだ4年間の大学生活で得た、さまざまな体験や経験は人生の大きな基礎を築いたと思います。充実した学生生活を過ごすことができたのは先生、よき仲間が支えてくれたからだと思っています。お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、社会人になっても荒波に負けずに頑張ってください。いつでも応援しています。

ありがとうを伝える



法学部
わけた えり
采田 絵里

法政大学での4年間は本当に短いものでした。大学のシステムやアルバイトなど、さまざまな「初めて」が詰まっていた4年間の生活の中で、いつの時も両親の存在は私の心の支えになっていました。

勉学に追われているにも関わらず趣味の音楽に没頭し、自分の生活を思うようにコントロールできない日々が続いたことがありました。精神的にも肉体的にも疲れがたまり、

優しさを求めて母に電話した際、「お金のことは気にせず好きに勉強しなさい。この4年間は財産になる」と言ってくれました。その言葉のおかげで本当に心が軽くなり、それまでの悩みが嘘のように前向きな気持ちになれました。

また、音楽に関わり続けて生きていきたいと決意をして上京した私を肯定も否定もせずにいた父は、結果的に夢を諦めることとなった私に「まだわからないだろう。これから先、可能性はいくらだってある」と言ってくれました。それまで無関心を貫いてきた父でしたが、夢について初めてアドバイスをもらうことが

できて、両親がいてくれること、心強さを改めて感じました。

たくさんの友人に出会えたこと、好きなことをとことんまで追い求められたこと、それはこの4年間の大きな財産です。そして、一人で暮らしてみても初めて両親がいてくれることのありがたさ、絶対的な味方がいる安心感を再確認しました。たくさん世話をかけた分、これからは社会の一員としてさらに学びつつ親孝行をしていきたいです。

娘に感謝

一人暮らし、異なる風土で育った人たちとの出会いや交流、学ぶことの楽しさなど、帰省の折に聞く話から、人生の中で一番贅沢な4年間という時間を悩みながらも存分に満喫している感じがうかがえました。この経験は、今後の人生に活かされると思います。

そして、また、父と母も後援会活動に参加することにより、新たに多くの貴重な友を得ることができ、野球応援など新しい経験をすることができました。娘に感謝です。

4年間を振り返って



現代福祉学部
せきね ひろや
関根 寛弥

大学生活を振り返ってみるとこの4年間はとても短く、しかし充実したものでした。これまで地元の福島県から離れて生活することがなかった私にとって、大学生活はどれも新鮮で貴重な経験であり、私を成長させてくれたと思います。

私は初めて一人暮らしをして、家族のありがたみを知りました。これまでとは違い、自分一人ですらなくてはならないことが多く、最初はと

ても苦労しましたし、責任も感じました。身の回りのことを何もしていなかった私は一人暮らしを通して、これまで自分家族に頼ってばかりであったことに気づきました。ずっと実家で暮らしていたらこのよう大切なことに気づくことができなかったと思います。

また、大学生活にはさまざまな人との出会いがありました。全国から集まった個性豊かな仲間に出会って、皆さんの刺激を受けました。共に学んで、遊んで、笑いあい、大学4年間で充実させてくれました。就職活動などで辛いことがあっても、どんなときも、会うと元気づけられま

した。地元にはは出会うことがなかったと思うと本当に大学に入ってから良かったと思えます。

大学4年間の経験、思い出は書ききれないほどありますが、こうして振り返ってみると私は自分の周りの皆さんの人々に支えられて生きていくのだと改めて感じました。卒業するのはとても寂しいですが、両親、友人、先生方など4年間で世話になったすべての人々に感謝しています。ありがとうございました。

人生七転八起

時の流れは早いもので入学から4年が経ち、大学での勉学は勿論、ゼミ、サークル、仲間との友情そしてバイトの体験などを通じて自分だけの財産が沢山できたことでしょう。

4月から公務員として社会に出る訳ですが、東京での経験を糧にして真っ白なキャンパスに自分の人生を描いてください。

父も母も後援会の活動を通じ、我が母校のごとく素晴らしい思い出ができました。

これからも思いやり、謙虚さ、優しさそして人への感謝を忘れることなく、思う存分羽ばたいてください。

出会いに感謝



スポーツ健康学部
おかだ かずほ
岡田 一步

法政大学での4年間、私はたくさんの出会いに恵まれました。1年生の春、兵庫県から上京して知り合いが一人もおらず不安でいっぱいの中、大学生活がスタートしました。しかし、そんな不安はすぐに吹き飛びます。サークルではたくさんの友人と出会い、キャンプや祭りなどさまざまなところへ出かけました。アルバイト先でも優しい先輩や面白い仲間と出会い、皆で集まっては朝まで語り明かしました。誰も知らない

い、右も左も分らない、不安でいっぱい。大学の生活はたくさんの出会いのおかげで楽しみがいっぱい。大学生活に変わったのです。少し遊びすぎて食料に困った時は友人が実家から差し入れを持ってきてくれたり、2011年の計画停電の時はみんなとひとつの家に集まり、ろうそくの火を囲んで乗り切ったりしました。たくさんの出会いに恵まれ、たくさんの仲間を支えてもらい、私の大学生活はとても充実したのになりました。この4年間はたくさんの仲間との出会いによって楽しむことができた4年間でした。卒業した後はまた、誰も知らない、右も左も分らない世界へ踏み出す

ことになります。しかし、法政大学での4年間でたくさんの出会いに恵まれ、たくさんの仲間を支えられてきたので今度は不安ではなく期待で胸がいっぱいです。次はどんな出会いが待っているのか楽しみで仕方ありません。この4年間のたくさんの出会いに感謝し、4月からの新たな一歩を踏み出したいと思えます。



1年生の夏 (前列左から2番目)

素晴らしい出会いを大切に



おかだ ちほ
岡田 千恵

初めて多摩キャンパスを訪れた時のあなたの瞳は新しい学生生活への夢に溢れ、キラキラ輝いていました。一人暮らしの寂しさや現実の難しさに直面しながらも、地元では出会えなかった人たちと出会い、刺激もたくさんもらったと思います。素晴らしい環境で学び、出会えた人すべてがあなたの財産になり糧となるでしょう。これからの人生も平らな道ばかりではないでしょうが、法政大学を卒業したことを誇りに思い、人との出会いを大切にしてください。幸多かれと願います。

成長できた4年間



キャリアデザイン学部
やました まさゆみ
山下 雅史

私はソフトテニスを中学から始め、大学の4年間においても第二体育会ソフトテニス部に所属し、競技を続けてきました。大学入学前にソフトテニスは高校までと考えていましたが、4年間通して続けることができたのは、大切な仲間との出会いがあったからだと思います。高校までソフトテニスを続けてきて、私自身思うような結果を残すことができず、大学では違うことを始

めようとしていました。そのような中、付属校からの先輩や同期からの誘いもあり、部に顔を出したことが大学でもソフトテニスを続けるきっかけとなりました。今まで競技をする上で結果ばかりに意識が向かってきた私にとって、仲間と楽しみながらスポーツをしていく大切さを再発見しました。このようなことは素晴らしい先輩や同期、後輩に恵まれなければできなかったと思います。また、練習を続けてきて、段々と大会での結果に結びついていき、選手としても充足感を得られました。競技を続けてきて、継続していく大切さを学ぶことができたことは、私にと

つてかけがえのない財産となりました。社会人になるにあたって、今まで味わったことのない苦悩や試練がこれから待ち受けていると思います。大学生活はそれを乗り越えるための支えになってくれると信じ、くじけず前に突き進んでいきたいと思えます。そして、今まで育ててくれた両親や、お世話になった仲間たちに一日でも早く恩返しができるよう日々精進していきます。



2013年の全日本学生オープン選手権 (前列左から2番目)

出会いに感謝、あなたに感謝



やました なほみ
山下 奈穂美

卒業おめでとう。念願の法政二高に入学してから7年間、良き師良き友に出会い、充実した楽しい学生生活を送ることができて、本当に良かった。私もあなたのおかげで、育友会後援会活動に関われ、素晴らしい多くのの方々に出会い、楽しい時を過ごすことができました。またスポーツ応援を通じて、たくさんの感動と生きがいを与えてもらいました。ありがとう。旅立ちの時、感謝の気持ちを忘れずに、自分で決めた道をまっすぐ突き進んでください。

第57回「オレンジの集い」鑑賞



幹事
とみざわ しのぶ
富澤 忍
(直世/経営学部)

12月7日(土)、第57回「オレンジの集い」が港区・芝公園のメルパルクホールにて開催されました。応援団の1年間の集大成となるこの集いに初めでの参加となります。ワクワクした気分で行場に向かうと既に入場待ちの大行列ができていました。この光景に次第に期待が膨らみます。「オレンジの集い」は、吹奏楽部、チアリーディング部、リーダー部のそれぞれのステージによる3部構成になっています。まず、吹奏楽部の軽快な音楽で幕が開きました。これから始まる楽しいステージに客席が引き込まれていきます。第2部はチアリーディング部。いつもと違う大きなステージで何倍もの魅力的な演技で楽しませてくれました。4年生から下級生へメッセージがありましたが、4年生の思いが客席にも伝わり、私も胸が熱くなりました。そして最後にリーダー部です。この体制の初応援は2012年12月16日(日)の甲子園ボウル。私も甲子園のスタンドから一緒に応援したことを思い出します。どこより多く通った神宮球場では暑い日も寒い日も、どんな天候でも変わらず、一生懸命応援する彼らの姿が目につけています。この1年の成長は、我が子のこのようにとても嬉しく、特に4年生が集大成として一杯演じるそれぞれのステージを涙が出る思いで見つめていました。4年生の皆さん、お疲れ様でした。

箱根駅伝応援記



幹事
いじま ひとし
飯島 仁
(植菜/生命科学部)

第90回箱根駅伝を後援会の仲間と一緒に、複数の場所に移動しながら応援しました。法政大学ののぼり旗や小旗を持ち、選手名を大きな声で呼ぶことが選手への励みになればと考え、トータル5カ所で応援しました。往路は生麦駅近くで2区を走る佐野拓馬選手を応援するところから始めました。メンバーが続々と集まり、後援会のオレンジ色のウィンドブレーカーを着て選手を迎える準備を整えました。大会を支援する白バイ隊や運営の車両が目の前を通り、空には中継のヘリコプターが近づいてきます。「何位で来るか」「タイミングをしっかりと見極めよう」と、応援メンバーも真剣モードです。なんとこちらも駅伝選手のスピードは時速20キロメートルを超えますから、我々の目の前は一瞬で駆け抜けていきました。次の応援は4区の国府津で行いました。のぼり旗を用意していた時に声を掛けてこられた出場選手の関係者の方々と、持参した小旗と一緒に振っての応援となりました。移動応援では他にも出会いがありました。復路の9区では、手描きの応援パネルを作っていた学生達と合流し、一緒に大きな声で応援できました。選手の皆様もお疲れ様でした。我々はこちらも一所懸命応援します。そして多くの会員の皆さんに駅伝のスピードを感じてもらいたいと思います。ぜひ一緒に応援しましょう!!



※()内はお子さまの名前/学部

後援会ウェブサイトのご案内
URL:<http://www.hosei-koenkai.org/>

法政大学のウェブサイトを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。

「携帯メール情報」の配信案内
法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、ラグビーや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人ひとりの力は小さくても、一致団結して盛り上げていきましょう。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。
koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp


